

# 栃木県立小山北桜高等学校 食料環境科

2020年4月（令和2年度）より新学科がはじまりました

～食料生産や環境創生の分野で活躍できるスペシャリストを育てます～

## 学科の目標

食料の生産や環境の創生に関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、農業の経営や造園等の環境関連産業に従事できる実践的な能力と態度を育成する。

## 育てたい生徒像

- ・生命の大切さと自然の尊さを理解できる生徒。
- ・産業人としてのマナーを身につけ、組織の中で役割を自覚し周囲から信頼される生徒。
- ・正しい勤労観・職業観を身につけ、社会に貢献できる生徒。
- ・農業や食品、環境などの関連産業の仕事に真摯な姿勢と責任感を持って従事できる生徒。

## 学科の特色ある教育活動

食料環境科では、日頃の学習だけでなく校外・地域での実習や実体験を通した学習として、次のようなボランティア活動や地域貢献活動へ積極的に取り組んでいきます。

### 校外、地域での学習活動

#### キャリア形成支援事業

外部講師によるフラワーアレンジメントの講習や造園樹木の生産技術についての講習を行います。



#### インターンシップ事業

近隣農家やJA、市役所、企業等で就業体験活動（現場実習）を行います。対象は2年生です。



#### 小山市内小・中学校の給食用食材提供

地産地消の推進を図るため、学校で栽培した農産物を給食用の食材として提供しています。

#### 地域の環境保全に関するボランティア活動

渡良瀬遊水地に生育する外来植物の除去や絶滅危惧種（トウサワトラノオ）の保全活動に取り組んでいます。また、足尾に緑を育てるための植樹活動、小山市内の河川堤防に植樹す



る市花「思川桜」の繁殖と育成活動、地域の緑環境向上を目指した作庭実習にも取り組んでいます。

# 栃木県立小山北桜高等学校 開校50周年記念事業 「北桜高ミツバチプロジェクト」 ～ミツバチでつながる北桜の未来～

小山北桜高校は、令和3年度に開校50周年を迎えます。50年前、生徒たちは自分が学習する農場を自ら開墾し、自費で桜の苗木を購入し植樹しました。その桜は、50年の歳月を経て更新の時期を迎えました。その歴史に思いを馳せ、何か記念となるものができないだろうかと検討を重ねた結果、農業科・工業科・商業科・家庭科がそれぞれの専門性を活かした協働事業「北桜高ミツバチプロジェクト」に取り組むこととなりました。以下、その内容を紹介します。



学科共通のテーマとして「養蜂」に取り組む。ミツバチの飼育や蜂蜜の採蜜・調整・製品化・販売等の過程において、各学科の専門性を活かした協働による連携を深めるとともに、総合的に学んだ成果を広く発信します。また、起業家精神の育成や環境学習にも活用します。

## 研究内容

- 1. 巣箱・巣枠等、道具類の製作（採蜜用作業台の製作等）
- 2. ミツバチの飼育（毎日の生態観察、ポリネーターとしての活用、蜜源植物の栽培等）
- 3. 蜜源植物の調査と訪花状況の確認（小山市の花「思川桜」等の蜜源利用等）
- 4. 採蜜とハチミツの充填・蜜ろうの利用（ハチミツのろ過、蜜ろうの精製等）
- 5. ハチミツの商品化・販売（容器の選定、商品ラベルのデザイン、校内販売の実施等）



## 成果と今後の取組

最も小さな家畜「ミツバチ」。毎日の生態観察や実習、データの蓄積を経て、ミツバチがはちみつの生産のみならず、果実の花粉交配を支える重要な役割を担っていること、また、飼養管理の大切さを改めて学びました。私たちのプロジェクトは、まだ始まったばかりです。ミツバチの夏越え、冬越えの課題解消をはじめ、蜜源植物の植栽、新しい巣箱等の製作、精製した蜜ろうの利活用、「北桜蜜」を使用した新たな商品開発など、各学科が一体となって学び、自らの専門性をさらに高めるために、「北桜高ミツバチプロジェクト」を継続していきます。